

薬連ハイライト

「薬剤師首長・地方議員意見交換会」が開催！
全国から26名の薬剤師議員が集結し、
薬剤師のため、気持ちを一つに!!

6月1日（木）午後1時30分よりAP日本橋において、令和5年度「薬剤師首長・地方議員意見交換会」が富永常任総務の司会で開催された。冒頭、山本会長より「議員の皆様には薬剤師が伸び伸びと働ける環境のために、地方から支えていただきたい」と挨拶があった。続いて、公務で参加できなかった薬剤師国会議員3名（逢坂誠二衆議院議員、本田顕子参議院議員、神谷政幸参議院議員）の祝電が披露された。

日本薬剤師連盟の現状報告として、①薬剤師地方議員の現状について、川田幹事長より説明があり、薬剤師議員の仲間が増えたことへの喜びが語られた。②直近の政治課題として、右井副会長より、日本薬剤師会の直面する喫緊の諸課題（訪問看護ステーションの配置拡大や調剤業務の外部委託の規制改革への反対について）、令和6年度予算・税制改正に関する要望、医療分野における物価・賃金高騰対策について説明があった。③次期参議院議員通常選挙に向けて、川田幹事長より、次回の本田選挙での目標数である20万票獲得のための協力依頼があった。

次に、出席した薬剤師首長・地方議員26名より近況報告と活発な意見交換が行われた。

その後、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことから、4年振りに懇親会も開催された。懇親会では薬剤師国会議員も駆けつけ、逢坂誠二衆議院議員からは医薬品供給に関する問題点について、本田顕子参議院議員からは統一地方選挙で当選された議員へのお祝い、神谷政幸参議院議員からは昨年7月の参議院選への応援と当選の御礼が語られた。

マスクを外し、直接顔を突き合わせ、積極的なコミュニケーションを取ることで、より親密な交流ができたのではないだろうか。



オレンジ日記

骨太の方針

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



「経済財政運営と改革の基本方針」、通称「骨太の方針」は、経済財政政策のほか社会、行政などを含むあらゆる分野の改革の方向性を記した文書で、年末に控える来年度予算編成や税制、そして物価・診療報酬改定などの重要政策につながっていきます。

現在6月の閣議決定に向けて、岸田総理が議長を務める経済財政諮問会議で議論され、自党内では政務調査会の各部会などで侃々諤々の政策論議が展開されています。

この方針は地方の行財政にも大きく影響しますので、この時期の議員会館には各自治体の首長をはじめ県市議会、団体などの皆様が沢山来られます。

日本薬剤師会からは、物価・賃金高騰対策、来年度予算・税制改正要望、診療報酬・介護報酬改定財源の確保、過剰な規制改革の抑制などを伺っております。

少子化・子育て対策も気になるところで、こども政策を進めることには皆が賛同しますが、財源論として社会保障費に切り込む旨の報道が先行しているため、党内では「社会保障の充実なしに少子化対策は進まない」との意見が多く出されています。

年末に向けて、国民の命と暮らしを守るための社会保障制度の充実を通じ、地域の皆様の安心・安全な生活を確保していけるように頑張っております。

政幸だより

厚生労働委員会で質問に
立ちました

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



今国会で「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」が審議され、令和5年4月25日（火）の参議院厚生労働委員会で質問に立ちました。

委員会では、改正法案の政府の考え方、後発医薬品の安定供給と業界の産業構造の改善や課題、重複投薬・多剤投与の適正化と電子処方箋の活用、電子処方箋の運用状況と薬剤情報の調剤現場における活用環境、医療法人・介護サービス事業者の経営情報の収集と病院薬剤師の確保・処遇改善等について質問を行いました。

後発品の安定供給問題では、薬局や医薬品流通業の現場の疲弊はピークに達しており、一刻も早い状況改善が必要であることを訴えました。また、日本製薬団体連合会による「医薬品の供給状況にかかる調査」が毎月報告となった予算対応は評価するものの、現場は検索する時点で当該医薬品の供給が無い状況に直面していることから、オンタイムで状況が把握できる必要があることと、医療上重要な製品にも限定出荷がかかっている現状を踏まえ、「供給状況の見える化による医薬品の安定供給確保」を確実に進めるよう要望しました。

厚生労働委員会で行ったそれぞれの質問については、項目毎に動画をYouTubeにアップしました。短いものは2分ちょっとで視聴可能です。下のQRコード、若しくは「神谷まさゆき」で検索していただき、興味のある項目をご覧ください。できれば幸いです。

